

高 松 市  
石 清 尾 山 古 墳 群

緊急発掘調査概報(第1次)

**1971-3**

高松市教育委員会

## 序

急激な地域開発のなかで文化財をどのように保護し、活用するかということは、私たち国民にとって重要な課題である。

市内峰山地区に点在する石清尾山古墳群は早く江戸時代から知られていたが、特に注目されるようになったのは、明治43年の猫塚発掘以来のことである。

昭和6年には京都大学の浜田、梅原両氏により精密な調査考察が加えられ、昭和8年3月京都大学文学部考古学研究報告第12冊「讃岐高松石清尾山石塚の研究」と題する書物としてその結果が発表せられた。

その後昭和9年1月、古墳群のうち石船塚は比較的元の形を残している上に、重要な遺物である掘抜式石棺のあるところから史跡として指定された。

今回の調査は45年3月文化財専門審議会ではこれら古墳の点在する峰山地区一帯を「石清尾山古墳群」として国指定とすることに内定したことにより改めて古墳の分布状況調査、発掘調査等を行い指定の範囲等を決定する資料を作成するために行つたものである。

目下調査資料は整理中ではありますが、ここに調査の概要を作成し一般の活用に供したく存じます。

最後に土地所有者をはじめ、調査を担当された方々ならびにご援助とご協力をいただいた各方面の方々に深く感謝の意を表します。

いにしへの人のたつきや若葉風

杜 雨

高松市教育委員会 教育長 三 木 嘉 光

## 例 言

1. 所在地 高松市峰山町
2. 調査期間 昭和45年12月15日から昭和46年3月8日まで
3. 調査主体 高松市教育委員会
4. 調査の組織

調査団長	高松市教育委員会教育長	三木嘉光
調査委員	高松市文化財保護委員	市原輝士
	” ”	横井金男
	” ”	新田藤太郎
	” ”	坂田 勲
	” ”	小竹一郎
	” ”	細溪福太郎
	” ”	大西正男
調査指導員	香川県教育委員会事務局	
	社会教育課	松本豊胤
課 査 員		高畑知功
”	善通寺第二等学校教諭	内藤教典
”	高松南高等学校教諭	広瀬忠明
調査補助員	四国学院大学	請川富子 高島千恵
”	四国学院大学	宮武京子 三井敏子
”	四国学院大学	小林悦子 中谷朋子
”	四国学院大学	戸梶美也子 横野ますみ
”	立正大学	大砂古直生
”	香川大学	岩本正二
”	県文化会館	岩田つや子
”	善通寺第二高等学校生徒	
”	高松南高等学校生徒	
顧 問	国立東京博物館原史室長	亀井正道



石清尾山古墳分布図

# 目 次

序

例 言

1. 調査にいたるまで	1
2. 石清尾山古墳群の概要	1
3. 調査経過	4
4. 調査の概要	8
5. 遺跡の概要	14
6. 結 び	15
7. 資料写真	16

## 1. 調査にいたるまで

峰山地区は高松市街地の西部に近接した標高200m、総面積約140ha、山腹を松林に覆われた丘陵で附近に点在する古墳群はその築成が積石であり、その形状も前方後円墳、双方中円墳、円墳、方墳、横穴式、堅穴式もあり、古墳時代中期の遺跡として考古学上貴重な存在であるとともに、この良好な自然景観は高松市の風致を一段と高める大きな役割を果している。

高松市においてはこの恵まれた自然環境を有し、しかも市街地に至近の位置にあるところから、峰山地区を一部森林古墳公園を含む市民のレクリエーションの場として、また観光地として開発するために民間資金も含めた共同開発方式により開発を進めることとなった。このため公共的な性格上、県、市を含む「峰山開発準備会」（仮称）が結成され、峰山開発構想に関連して峰山地区一帯に点在する古墳の分布状況についての調査の申し出があつた。（昭和43年12月）これにより昭和44年2月12日から2月14日まで県、市、文化財専門委員による実地調査の結果、北大塚、鏡塚、石船塚、小塚、姫塚、猫塚等の積石塚のほか地区内に点在する16基の古墳を確認した。これにより「峰山開発準備会」に、文化財保護は国民的課題であることに鑑み、保護優先の立場に立つた開発計画策定を要望し、了解を得るとともに、文化庁に石清尾山古墳群史跡指定の資料を提出した結果、昭和45年3月文化財専門審議会において、すでに指定されている「石船積石塚」に追加してこれらの古墳を「石清尾山古墳群」として指定されることが内定した。

その後、指定決定に先だち、指定の範囲および個々における古墳の重要度等の資料作成のため国庫補助を受け、石清尾山一帯の「埋蔵文化財緊急発掘調査」を実施することとなった。

## 2. 石清尾山古墳群の概要

### 1. 地形の概要

高松市の西南、市街地につづいて石清尾八幡神社の裏山をなす石清尾山（標高231m）を中心に、東に栗林公園の裏山をなす紫雲山（標高200m）南に浄願寺山（標高239m）の三つの山地がある。この三つの山を通称石清尾山塊と呼んでいる。そのうち石清尾山は南方の部分を石船山、その西方猫塚の附近は亀命山、その北斜面の海側に突出した部分を西宝寺山と呼称している。また、亀命山を西側から観る時は御殿山、西宝寺山を西側から観る時は郷東山と通称する。亀命山と石船山との間が狭谷をなしているが、その形状が摺鉢のようになっていところから摺鉢谷といい、附近の山も摺鉢山なる別名もある。

現在、この摺鉢谷は高松市峰山町の地籍に属する。

石清尾山塊の成因は、屋島や国府台飯野山などと同じく花崗岩の基盤上を熔岩でおおつたものであり、含輝石讃岐岩質安山岩の層でできている。

## 2. 古墳群の概観

摺鉢谷週辺の山の背に数多くの古墳があり、附近に多い安山岩を用いて墳丘を築いている。

石清尾山古墳群の中核をなす積石塚の一群である。西方より猫塚、姫塚、小塚、石船塚、鏡塚、北大塚などである。又、摺鉢谷西側の緩傾斜面から西宝寺山に亘って積石塚、盛土墳等16基の古墳がある。1号墳から16号墳までで横穴式石室が多い。

### 猫 塚

亀命山上の一部にあり、石清尾山古墳群の中では出土遺物、墳丘の大きさにおいて最大の古墳であり、双方中円墳で県下に類例がない。全長95m、高さ5m、堅穴式石室8個並列、鏡5面、石釧、銅劍身、銅鏃、鉄斧などの出土例がある。

### 姫 塚

浄願寺山と稲荷山の間であり、最高所に後円部を造築山の背に沿って西方に前方部を附す。主軸の長さ42m後円部の径21m、高さ3.5m。

### 石 船 塚

摺鉢谷の東方尾根上にあり、南方に後円部、北方に前方部を造築している石積塚である。全長約55m、後円部径28mをはかる。後円部の中央に名称の依つて生じた石棺を露出しており「三代物語」の中に「石船（一名天の岩舟）吾之を見るに人を葬る石廓に似たる可」とある。近年石棺の西南約4mの所に巾約55cm、長さ188cm、深さ約70cmの堅穴式石室が発見され、鏡一面が出土している。

### 鏡 塚

石船塚の北に近接して山の背に構築された双方中円墳である。全長75m、中央部径30m。中央部は掘り荒らされており構造物は認められない。

### 北 大 塚

鏡塚から西北に次第に下降する主脈の端に近く、前方部を東南に向け、後円部は上部に試掘穴等がある。全長40m、後円部径20m。

摺鉢谷西側緩傾斜面にみられるものは現在開墾されているが、開墾以前には多数の古墳があつたものと思われる。そのうち確認されたものの概要は次のとおりである。

古墳番号	所在地	墳形	平面計測	高さ	立地	現状
1	西春日町 1063-10	円墳	長径7m 短径6	2	山林、南斜面	墳丘は土墳で多少形が崩れている。堅穴式石室が一部開口、石室、長さ3.5m、幅0.8m主軸は南北にある。
2	峰山町 1821-2	横穴式石室 (円墳)	径10	2	草生地南開口 東面傾斜地	墳丘は土墳、天井石露出、石室の状況は良好。
3	峰山町 1821-1	"	"	2.5	"	北方で開墾のため墳丘が変形、天井石露出、石室の積石状況良好。
4	峰山町 1826-2	"	径8	3	草生地、東開口 東面傾斜地	天井石露出、かつて稲荷を祭り、上方の5号墳石室内の祭壇へ連絡のため、奥壁を取除きトネル状にしている。
5	峰山町 1826-2	"	"	3	"	墳丘の北の南で裾が削られている。石室内部奥1.6m程稲荷を築るコングリート製の祭壇がつくられている。床面にもコンクリートがうたれている。
6	峰山町 1838-61	"	径6	2	東面傾斜地 東に開口	羨道を除去し、支室内部に岩屋不動を祭つてある。信者多く玄門を取り込んでお堂が建てられている
7	峰山町 1838-59	円墳	"	"	東面傾斜地	かつて古墳があつたらしいと推定でききる程度で墳丘なし。
8	峰山町 1836-59	"	径7	1	"	墳丘を僅かに残す。石室のものらしい石が数個認められる。
9	西宝寺町、峰山町 鶴市町、西石清尾36 御殿37	前方後円墳	全長27.4 前方端7.4 後円径13.1	1.2	尾根上にあり 三町にまたがる	積石塚後円部の西方に石積みが残されているが、相当削平されている。前方部も乱され平面プランが判明するだけのもの。
10	鶴市町 御殿37	横穴式石室 (円墳)	径6	2	東面傾斜地 石室は南に開口	墳丘は雑木のため明らかでないが、礫と土で築かれていて、玄室の一部が開口、羨道の天井石除去
12	鶴市町 御殿37	円墳	径5	1	南面傾斜地	墳丘は小礫で形成され、畑地の端にあるので開墾の際に形成されたものであるかもしれない。
12	西宝町 香東37	"	"	1	"	"
13	西宝町 香東37	方墳	径9	1.5	山頂に近い 南面傾斜地	墳丘は方形を呈するが円墳の変形であるかもしれない。一部に昔石あり、墳頂に石露出
14	西宝町 西石清尾36	円墳	径5	1	尾根上	積石塚附近に安山岩の露岩があり、墳丘も崩壊している。盗掘されているが石室は残存する。
15	西宝町 西石清尾36	"	径6	1.4	"	14号より30m程東、基部に築造の形がよく残つている。盗掘されているが石室は残存する。
16	西宝町 西石清尾36	"	"	1	尾根よりやや、南 斜面	積石塚、附近に自然の露出が多く墳丘も崩壊している。盗掘されているが石室は残存する。盗掘されているが石室は残存する。盗掘されているが石室は残存する。

### 3.調査経過

年	月	日	項	目
45	9	11	文化庁に対し、補助申請	
	11	19	古墳群の分布状況事前調査	
		22	分布調査の結果 北大塚、鏡塚、石船塚、小塚、姫塚、猫塚の外16基の古墳の所在を再確認	
12	9		市文化財保護委員会を開催、緊急調査について具体的な計画樹立、調査団編成	
		13	器材調達	
		14	宿舎の借上げ清掃	
		15	調査開始（第1次）	
		"	2号墳、上面清掃下草刈り、床面検出	
		16	" 床面検出、清掃	
		17	" 床面検出、掘開	
		18	" 床面検出	
		19	" 床面検出、清掃、写真撮影	
		20	" 清掃、粹組、写真撮影	石清尾山一帯の
		"	3号墳、床面検出	測量による分布
		21	2号墳、石室平面図、石室土面図	図の作製
		22	3号墳、床面検出	
		23	2号墳、石室平面図	
		"	3号墳、床面検出	
		24	2号墳、粹組、石室平面図	

年	月	日	項	目
45	12	24	3号墳、床面検出	
		25	2号墳、粹組、石室平面図	
		"	3号墳、清掃、粹組	
		26	2号墳、粹組、石室平面図、奥正面図、	
		27	2号墳、粹組、石室平面図	
		"	3号墳、遺物分布図、粹組、掘開、石室平面図、写真	
		28	2号墳、石室平面図、奥正面図、粹組	
		"	3号墳、石室平面図、掘開	
		29	2号墳、粹組、石室平面図	
		30	3号墳、横断面図、縦断面図、清掃	
46	1	4	2号墳、石室平面図	
		"	3号墳、床面検出、石室平面図	
		"	4号墳、床面検出	
		5	2号墳、粹組、石室平面図	
		"	3号墳、石室平面図、床面検出	
		"	4号墳、床面検出	
		"	5号墳、床面検出	
		"	7号墳 床面検出	
		6	2号墳、粹組	
		"	7号墳、床面検出	
		7	2号墳、粹組	

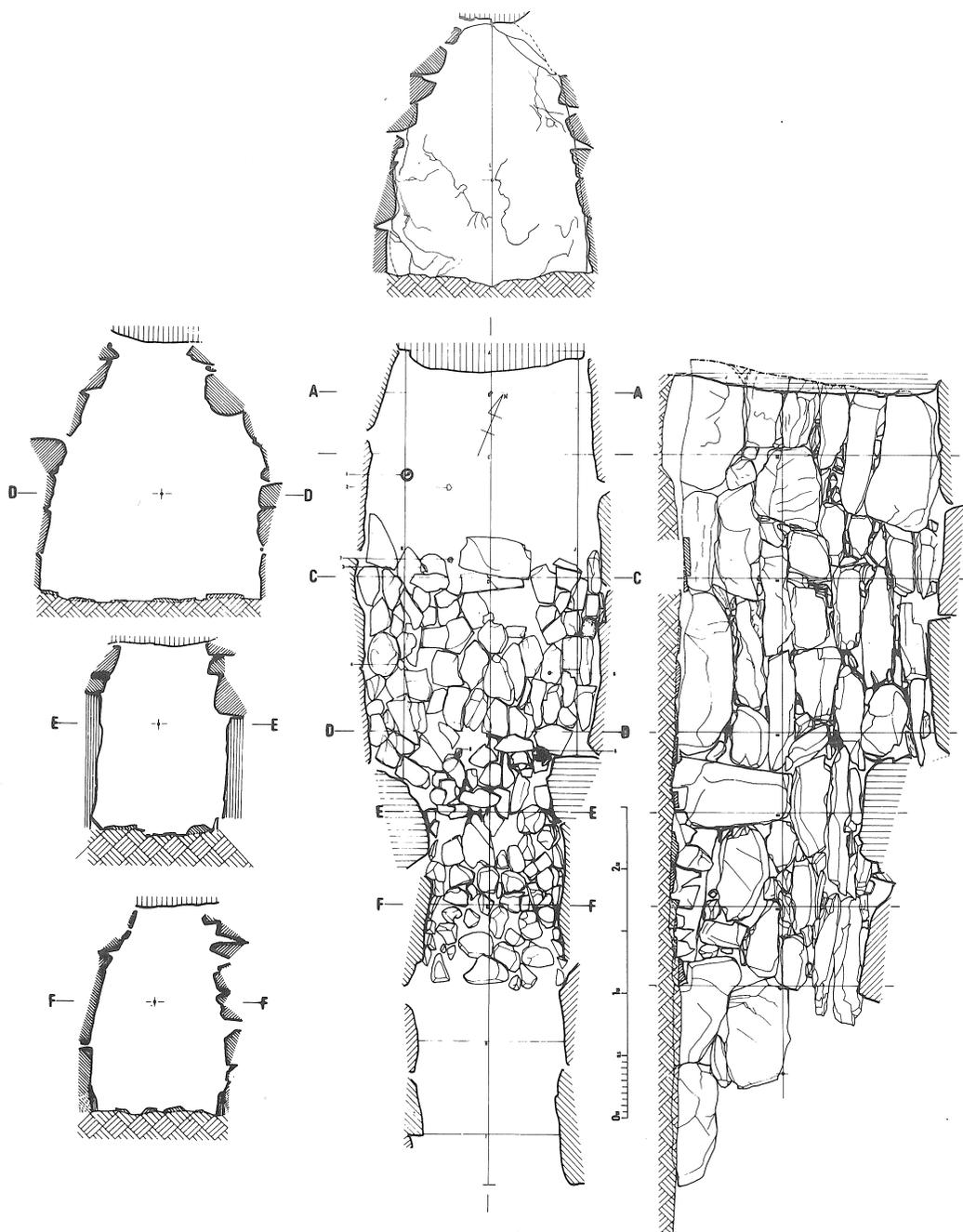
年	月	日	項	目
46.	1	7	7号墳、床面検出、清掃	
		8	3号墳、石室平面図	
		"	7号墳、床面検出	
		"	8号墳、床面検出	
		9	2号墳、粹組	
		"	3号墳、石室平面図	
		10	2号墳、粹組	
		"	3号墳、石室平面図	
		"	8号墳、床面検出	
		11	2号墳、粹組	
		"	8号墳、床面検出	
		12	2号墳、粹組	
		"	7号墳、写真	
		"	8号墳、写真	
		13	2号墳、粹組	
		"	7号墳、写真	
		"	8号墳、粹組、写真	
		14	2号墳、側壁図	
		"	3号墳、石室平面図	
		"	8号墳、粹組	
		15	2号墳、粹組、奥正面図	
		"	3号墳、写真、レベリング、石室平面図、粹組	

年	月	日	項	目
46	1	15	8号墳、粹組	
		16	2号墳、粹組、奥正面図	
		"	3号墳、粹組	
		"	8号墳、粹組、石室平面図	
		17	2号墳、粹組、奥正面図	
		"	8号墳、石室平面図	
		18	3号墳、遺物分布図	
		19	2号墳、側壁図	
		"	3号墳、レベリング	
		20	3号墳、床面検出、写真、石室平面図、掘開	
		22	2号墳、側壁図	
		23	3号墳、床面検出、レベリング、掘開、粹組	
		24	3号墳、掘開、粹組、床面検出、横断面図、縦断面	
		"	図、レベリング、8号墳、石室平面図、横断面図	
		25	3号墳、粹組、写真	
		26	3号墳、掘開、粹組、レベリング、写真	
		29	2号墳、側壁図、清掃、粹組	
		30	3号墳、粹組、レベリング、清掃、遺物分布図	
		31	2号墳、奥正面図	
		"	3号墳、側壁図、粹組、レベリング	
	2	1	2号墳、奥正面図	
		"	3号墳、粹組、レベリング、側壁図	

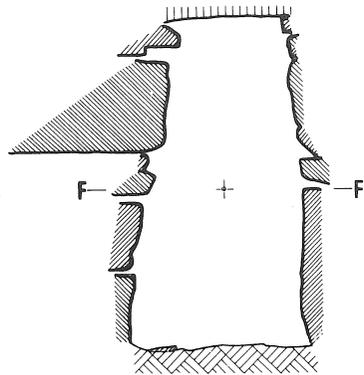
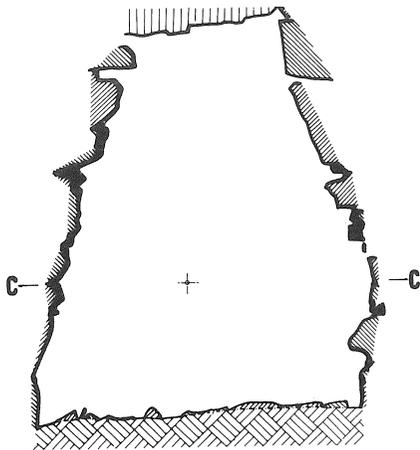
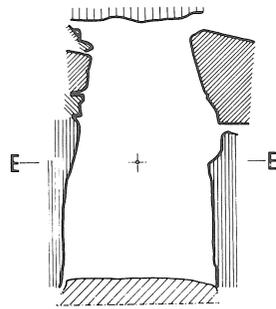
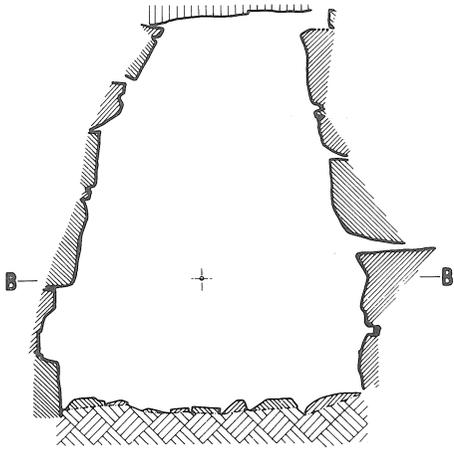
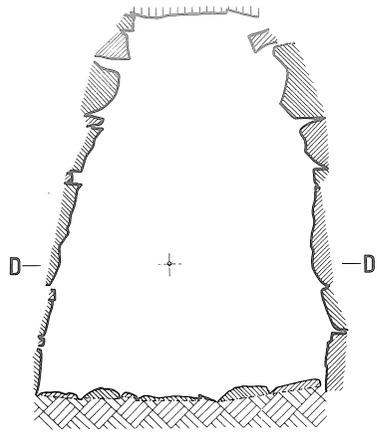
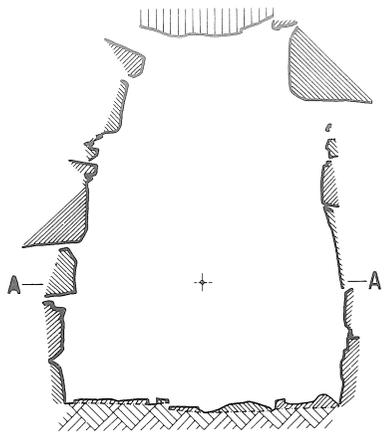
年	月	日	項	目
46	2	2	2号墳、粹組	
		"	3号墳、奥正面図、側壁図	
		3	2号墳、粹組	
		4	2号墳、側壁図	
		"	3号墳、清掃	
		5	2号墳、側壁図、粹組	
		"	3号墳、写真	
		6	2号墳、側壁図、粹組	
		"	3号墳、側壁図	
		7	2号墳、粹組、掘開	
		"	3号墳、奥正面図	
		8	2号墳、側壁図	
		9	2号墳、側壁図	
		10	2号墳、側壁図	
		11	2号墳、側壁図	
		"	3号墳、側壁図	
		12	2号墳、側壁図	
		13	2号墳、側壁図、粹組	
		14	2号墳、粹組、横断面図	
		15	2号墳、横断面図	
		16	3号墳、側壁図、粹組、清掃	
		17	3号墳、奥正面図	

年	月	日	項	目
46	2	18	2号墳、側壁図	
		"	3号墳、側壁図	
		"	7号墳、粹組	
		19	3号墳、側壁図、粹組	
		20	2号墳、横断面図	
		"	3号墳、粹組、側壁図	
		21	2号墳、横断面図、縦断面図、清掃	
		"	7号墳、粹組	
		23	2号墳、縦断面図	
		24	3号墳、奥正面図、粹組	
		25	3号墳、側壁図、清掃、粹組、横断面図	
		"	7号墳、粹組	
		"	8号墳、側壁図	
		26	3号墳、横断面図	
		27	3号墳、掘開、横断面図	
		"	7号墳、粹組	
		"	8号墳、側壁図、横断面図、縦断面図	
		28	3号墳、粹組、横断面図、縦断面図、掘開	
	3	1	8号墳、掘開	
		2	3号墳、写真、粹組、石室平面図、レベリング	
		"	7号墳、奥正面図	
		"	8号墳、写真、清掃、粹組、石室上面図	

年	月	日	項	目
46	3	3	3号墳、レベリング、縦断面図、掘開	
		"	7号墳、粹組	
		"	8号墳、石室平面図	
		4	3号墳、石室平面図、粹組、レベリング、掘開	
		"	7号墳、粹組、石室平面図、側壁図	
		"	8号墳、側壁図、石室平面図、掘開	
		5	3号墳、掘開、写真、粹組	
		"	7号墳、石室平面図、上面清掃下草刈り、粹組	
		"	8号墳、清掃	
		6	3号墳、地形図平板測量、石室平面図、レベリング 横断面図、縦断面図、掘開	
		"	7号墳、粹組、側壁図、石室平面図	
		7	7号墳、側壁図、横断面図、縦断面図、掘開	
		8	第1次調査終了	



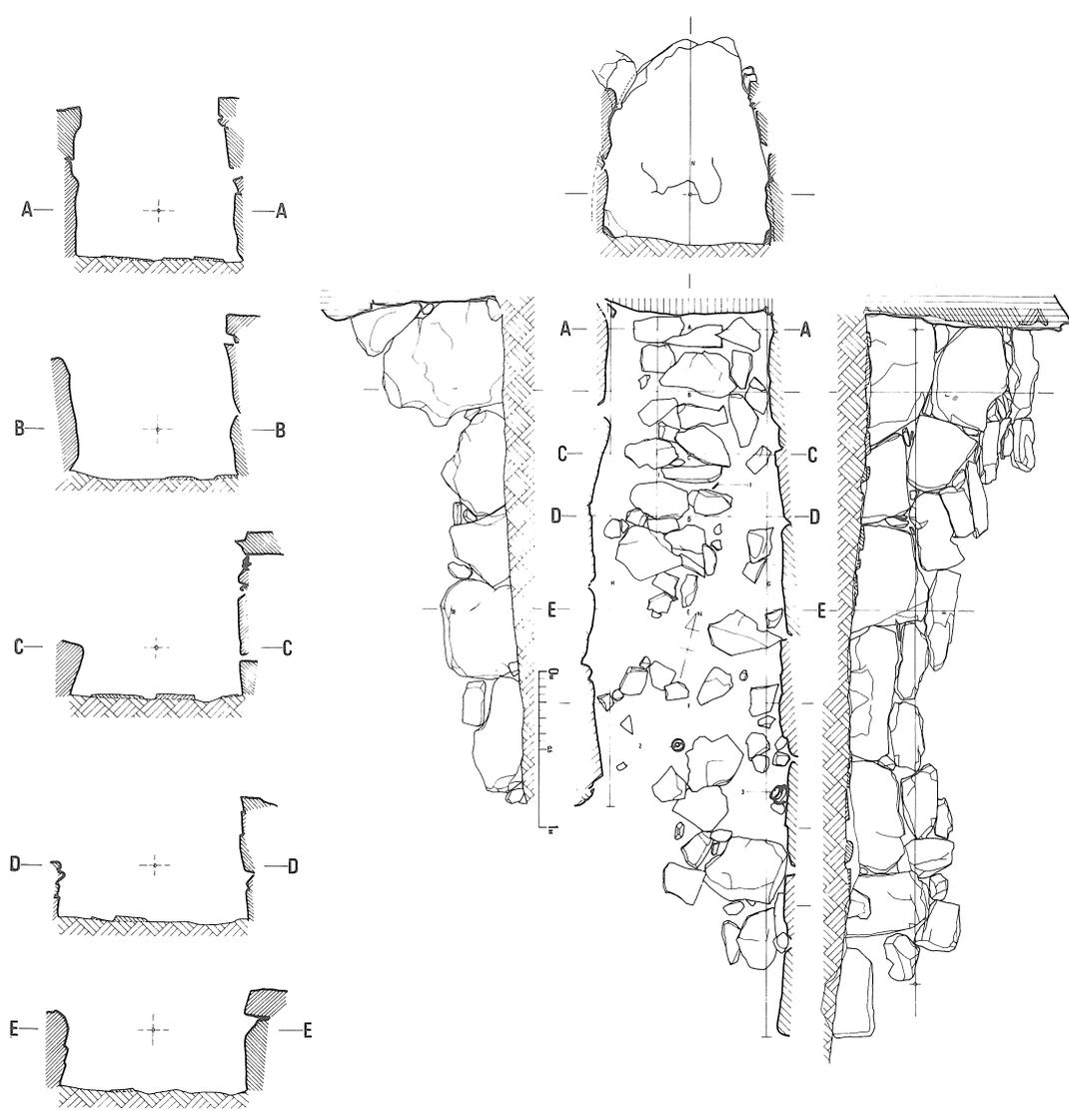
2 号 墳 実 測 図



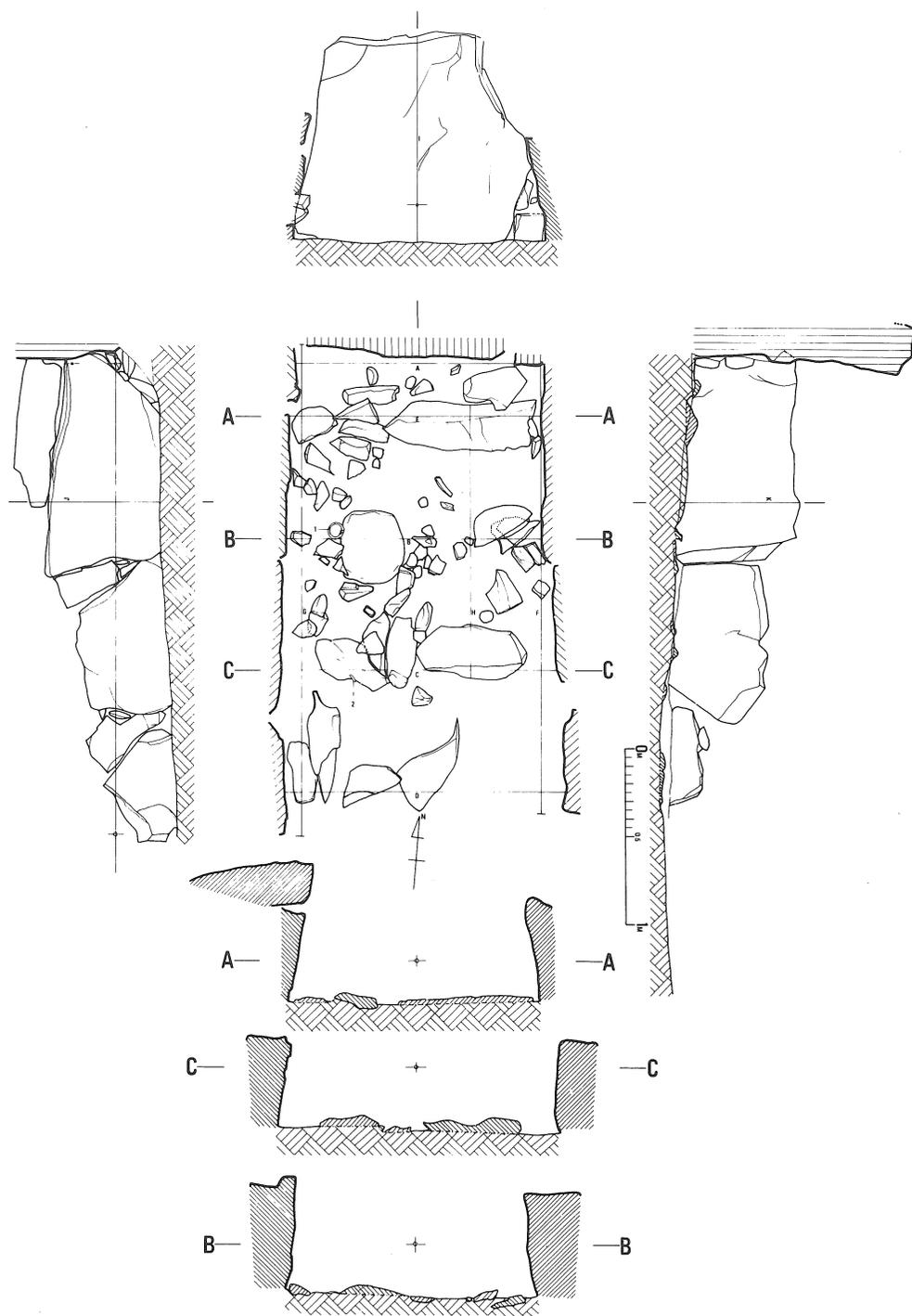
3 号 坟 实 测 图



100%



7 号 坟 实 测 图



8 号 墳 实 测 图

## 4. 調査の概要

### 今回の調査

#### 1. 峰山地区一帯の地形の測量および古墳の分布調査

#### 2. 古墳 7基 (2・3・4・5・6・7・8号墳) の発掘および実測

今回の調査は以上の7基であるが、そのうち2、3、7、8号墳については床面の調査および計測作業を終了している。

**石清尾山 2号墳** 峰山町1821-2番地にあつて、羨門附近部はかつて果樹園になつていたので遺構の検出は不可能であつた。墳丘についても石室の周辺に手が加えられており、天井石も部分的に露出している。このため、墳丘は原形をとどめておらず、速座に墳形を断定しがたい。石室内も、戦前に牛小屋に利用されていたらしく床面には2個の尿壺が埋めこまれており、その際に玄室内の約1/3位の敷石が除去されとりはずした床面敷石が、石室東隅に設けられたピット内に投げこまれていた。このことは遺物の細片化にもあらわれている。石室自体は、ほぼ完全な形で存在している。特に他の石室と異なるところが羨道部にみられるのを記すると、玄室内からの敷石が羨道部中ほどまでのびてきており、その敷石と側壁根石との間に斜めに立てかけられた約20~30cm位までの板石が左右に立ち並んでいることである。これらの立石は床面敷石より一過程早くおかれ、側壁に板石上部をかけ、板石下部を羨道敷石で根がためしている。

### 遺物

(1)杯：須恵器身完形品 (2)壺形土器口縁：須恵器片釉付着 (3)壺形土器胴部：須恵器片厚さ1cm (4)杯：須恵器蓋破片底部整形 (5)台付：焼成不良か灰色を程している (6)高杯：須恵器片にて接合部が多少現在している。(7)壺胴部：須恵器片 (8)金環：約3cmの宝玉 (9)小玉：ガラス製・須恵器片



2号墳 金環出土状態



3号墳 羨道・前道部出土遺物

石清尾山3号墳 峰山町1821～1番地にあつて、羨門部附近はかつて果樹園になつていたが、2号墳ほどの攪乱は認められなかつた。石室内は開口し子供の遊び場になつていたのでたき火の跡などもみられ、床面及び石室堅面にすすが付着していた。また何かにつけて物置きとして使用されたらしく石室中央付近の床面敷石の乱れによつて知ることができる。比較的保存状態がよい。実測後の成果として2号墳と3号墳の計測数値の近いことに注目したい。奥壁部巾・玄室長玄室高は、ほぼ一致する。トレスの結果においてもまったく同じとは言いがたいが重なつてしまう。規模・遺物等を含め比較・検討する必要性を感じる。

羨道部 前道部には2号墳にみられなかつた多くの出土遺物がある。5つのブロックに土器片が集められて

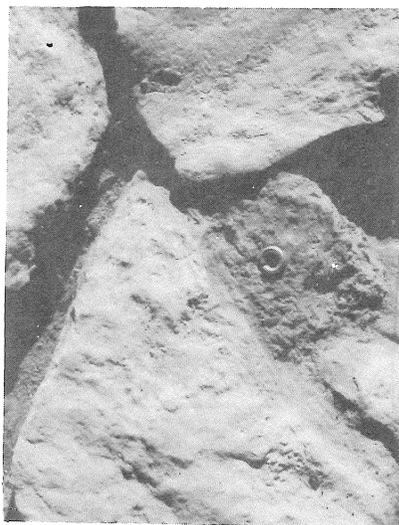
おり、須恵器一括、土師器一括と、土師器が区別されているような状態で出土している。

A-瓶・甕(土師器) B-平瓶(須恵器)

C-提瓶・杯蓋・杯身(2)・大形壺(須恵器)

D-大形壺(土師器) E-(土師器)

- (1) 短脛壺 (2) 短脛壺 (3) 提瓶 (4) 鉄 鏃  
 (5) 鉄製品 (6) 鉄 鏃 (7) 刀子 (8) 鉄製品  
 (9) 鉄製品 (10) 鉄製品 (11) 小玉 (12) 小玉  
 (13) 小玉 (14) 小 玉 (15) 金環 (16) 金 環  
 (17) 土 釜 (18) 土 釜 (19) Aブロック  
 (21) 鉄製品 (23) ヤリガンナ (24) 提 瓶



3号墳 金環出土状態

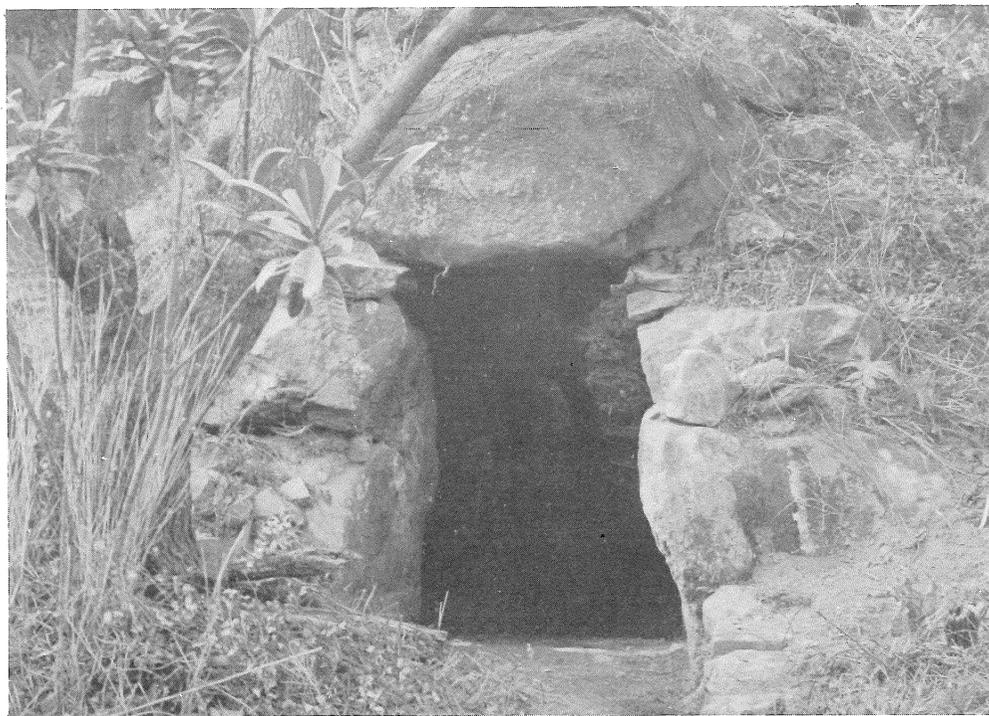
石清尾山4号墳 峰山町1826-2番地にあつて、大正期には上部にある5号墳と関連づけて、「稲荷」を祭る場所として利用されたらしく、奥壁の一枚石を除

去し、約50m離れた畑中に立ててあり、除去した部分よりコンクリートの階段を5号墳入口まで直結している、石室内にはコンクリートの床面と祭壇が設けられ、側壁間にはコンクリートの目バリがしてある。その後も持主の物置として今日まで利用されている。床面は「稲荷」を設ける際につけた排水管掘開の為に根石より深く下げられ根石が浮いた状態になっている。

床面検出の際には「稲荷」の銭と思われる「寛永通宝」「大正期の一銭」等が数枚出土している。一応今回の調査では清掃にとどまったが、石清尾山における横穴式石室として最大の規模を有し、一部側壁の根石には円形の刻線がみえる。また天井石の利用方法で天井石長軸を石室主軸と平行させてあるのが特記される。

### 遺物

- (1) 土師器片 (2) 提瓶 (3) 須恵器片



4号墳 正面より望む

**石清尾山5号墳** 峰山町1826-2番地にあつて、前記の4号墳奥壁部を除去してつくられた階段が本墳入口に向かって造られている。奥壁にはコンクリートの祭壇が設けられ、石と石の間に

は、床面同様コンクリートが詰められ補強されている。従つて正確な計測は不可能であるが両袖式の横穴式石室墳である。現状のままで残しておいてもらいたいという地主の意向により、羨道部に少し手をつけたのみで清掃にとどめざるを得なかつた。



5号墳 正面より(南)

石清尾山6号墳 峰山町1838-61番地にあつて、羨道が除去され、玄室部に祭壇を設け、その石室自体を建物の内にとりいれている。

6号墳  
正面より

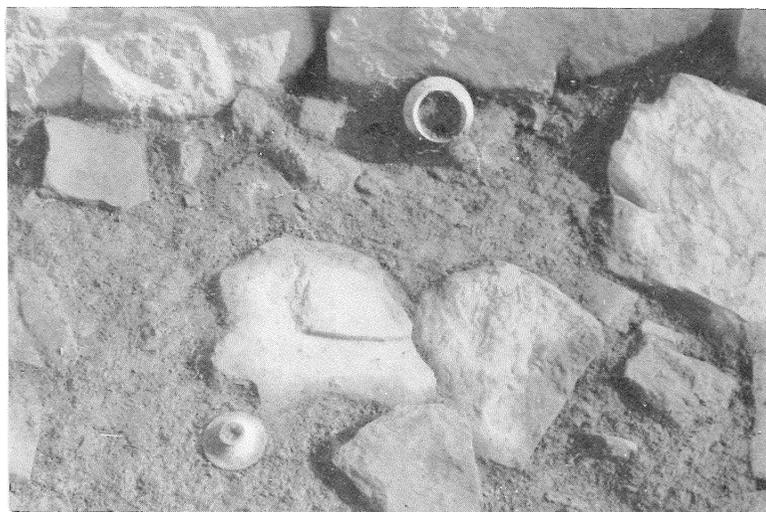


**石清尾山 7号墳** 峰山町1838- 59 番地にあつて、石室が崩壊し墳丘も形を止ない程破壊され奥壁部と側壁部が一部露出していた。約1mの深さで床面敷石を検出した。石室玄門付近と考えられるところに20年程前に埋設された水道管が石室主軸に斜向して走っており、この掘さくで大幅の破壊をうけたらしく、西側壁は根石を5石残すのみである。東側壁は直線的であり、残存部も良好である。2、3、4、5号墳と比較してみると、平面フランは袖無形を程し全体的に小型化している。使用石材は石室の小型化に判い、2、3、4、5号墳より小型化し、割石が多く使用される傾向があるようだ。床面敷石も他石室と異り石室全面に施こされいるのではなく、奥壁より巾80cm

長さ180cmと長方形に敷かれている。遺物をと石室主軸に平行しておいたかもしれない。

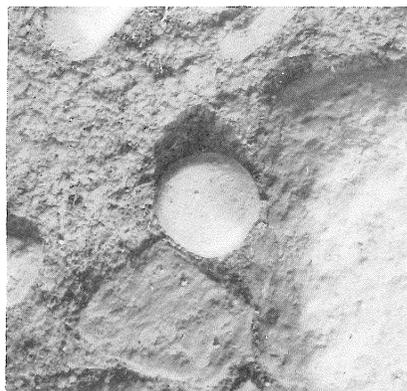
**遺物**

- ① 刀子
- ② 台付埴（台）
- ③ 台付埴（埴）



**7号墳 台付埴出土状態**

**石清尾山 8号墳** 峰山町1836- 59 番地にあつて、終戦の開墾に際し、除去した石が石室内に投げこまれており、石ダメとなっていた。発見当初は奥壁上端部が約20cm位露出ただけであつた。約1mの掘開によつて床面に達する。プランは玄室の中ほどより前方が破壊されてしまつており、側壁も一部分をのぞいて、東西根石を残すのみである。墳丘を薄く包む盛土が現存しているのが、各墳丘の形状である。



**8号墳 皿出土状態**

## 石室計測値表

場所 墳名	玄室巾	玄室長	玄室高	羨道巾	羨道長	羨道高
	cm	cm	cm	cm	cm	cm
2 号 墳	A 1 5 0	J 3 23.5	L 2 1 2	F 1 0 5		P 1 4 5
	B 1 6 7		M 2 2 4	G 1 0 5		
	C 1 79.5		N 2 03.5	H 1 0 9		Q 1 5 1
	D 1 9 9		O 2 0 7	I 1 1 8		
	E 1 78.5	K 3 5 0				R 1 6 0
3 号 墳	A 1 5 0	L 3 2 1	Q 2 0 0	G 8 5	O 2 4 9	V 1 4 0
	B 1 4 5.5		R 2 0 5	H 9 7		W 1 7 7
	C 1 50.5	M 3 2 6	S 2 0 8	I 1 1 4		X 1 7 7
	D 1 6 5		T 2 0 9	J 1 1 7		Y 9 5
	E 1 7 5		U 2 0 8	K 1 0 5		
	F 1 58.5	N 3 4.8			P 1 9 2	
7 号 墳	A 1 0 7	G 4 6 4	J 1 0 4	<p>表 について</p> <p>(石室長)</p> <p>ここに記した数値は、2・3号墳石室の近似値の事実二期き、参考に計上するものである。ここでの問題はかつての人々が、どの点と、どの点に意識を働かせたのか。何を基準にして築造したのか、であるが、一応ここでの形状把握は床面を基点にし計測を行つたものである。2号のA、B、C、D、L、M、N、J、Kは攪乱の為に床面下端に基点を設けたものである。</p>		
	B 1 0 5		K 6 5			
	C 1 1 0		L 7 5			
	D 1 1 3	H 3 2 5	M 4 6			
	E 1 2 1		N 1 3 0			
	F 1 1 9	I 1 6 5				
8 号 墳	A 1 4 3	F 2 5 5	I 1 13.5			
	B 1 4 5					
	C 1 5 7	G 2 7 8	J 7 4			
	D 1 6 0					
	E 1 4 4	H 1 5 6	K 6 9			

## 5. 遺跡概要

概要 墳名	内部構造	石室プラン	石室長	開口方向	突測主軸方位	床面	石材	所在地	立地	所有者
2号墳	横穴式石室	両袖式	6.57	南東	N-36°7'-W	敷石 板石 角礫	古銅輝石 安山岩	峰山町 1821-2	斜面	英茂富
3号墳	横穴式石室	両袖式	5.97	南東	N-23°2'-W	敷石 角礫 板石	古銅輝石 安山岩	峰山町 1821-1	斜面	"
4号墳	横穴式石室	両袖式	6.90	南東	N-38°-W	不	古銅輝石 安山岩	峰山町 1826-2	斜面	寺井勝樹
5号墳	横穴式石室	両袖式	4.85	南東	N-47°-W	不	古銅輝石 安山岩	峰山町 1826-2	斜面	"
6号墳	横穴式石室	片袖現存	3.10	南東	N-16°-W	不	古銅輝石 安山岩	峰山町 1838-61	斜面	松下喜代儀
7号墳	横穴式石室	袖無	4.14	南東	N-14°3'-W	敷石 板石 角礫	古銅輝石 安山岩	峰山町 1838-59	斜面	山本植子
8号墳	横穴式石室	不明	2.72	南東	N-5°7'-W	敷石 角礫 板石	古銅輝石 安山岩	峰山町 1836-59	斜面	松下喜代儀

## 6. 結 び

石清尾山古墳群の特徴は主として南方尾根から東方尾根上に築かれた積石塚にあるが、それと同時に西方斜面に点在する横穴式石室が、立地を異にするとはいえ、同じ峰山の山頂部の極く限られた地域に遺されている点が本古墳群をさらに特徴づけている。今回の調査は冒頭で報告したように主として西方の斜面に点在する横穴式石室の調査であるが、いずれも開口し、その資料的価値はいささか減じているとはいえ、比較的良好にその構造を保っているものについて二・三号墳、四・五号墳、六・七・八号墳のグループといった小支群を設定することができる。

まず二・三号墳によつて形造られた一支群であるが、両者の石室の計測値が比較的一致する点が多いのに注目したい。

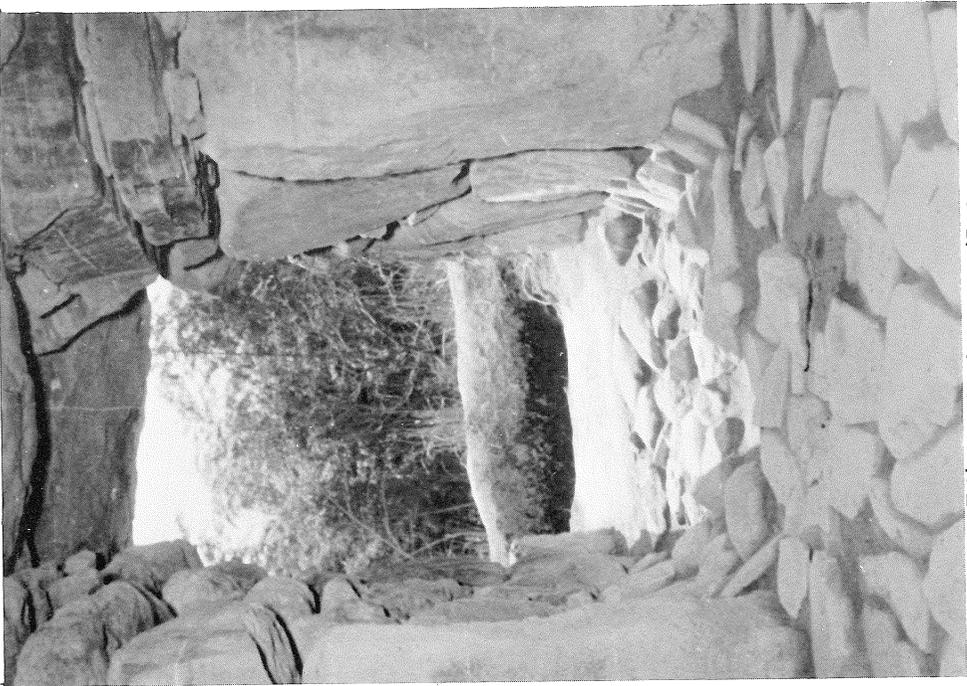
細部については先の説明で記述したところである。また開口後相当長期間の時日が経過しているにもかかわらず床面の保存は良く、一部かく乱されてはいたものの敷石が残されていた点など不幸中の幸としなければならない。副葬品についてみても大部分は失なわれていたが、両者共に金環の外須恵器数点の出土をみたことはこれ又大成果としなければならない。詳細についてはいずれ資料が整理されるに従つて明らかにされるであろう。いずれにしる規模を同じくする両墳が年代的に隔りのない時期に築造された同一家族墓であることは明らかであろう。

七・八号墳は大部分が破壊されていたが、これも平面プランはほぼ両者軌を一にする。この支群は現在岩屋不動尊を祈る祭壇として利用されている六号墳と、その周辺に存在したといわれる二・三基の石室と共に一つのグループとなるものであろう。

石清尾山古墳の第1次調査の結果は以上のとおりである。四・五・十号の横穴式石室および九号以下一六号までの古墳についての調査は二次調査で計画されている。いずれ全調査を終了した段階で西方斜面に遺存する古墳群の性格が明らかにされるであろうことを期待したい。



2号墳 奥壁正面



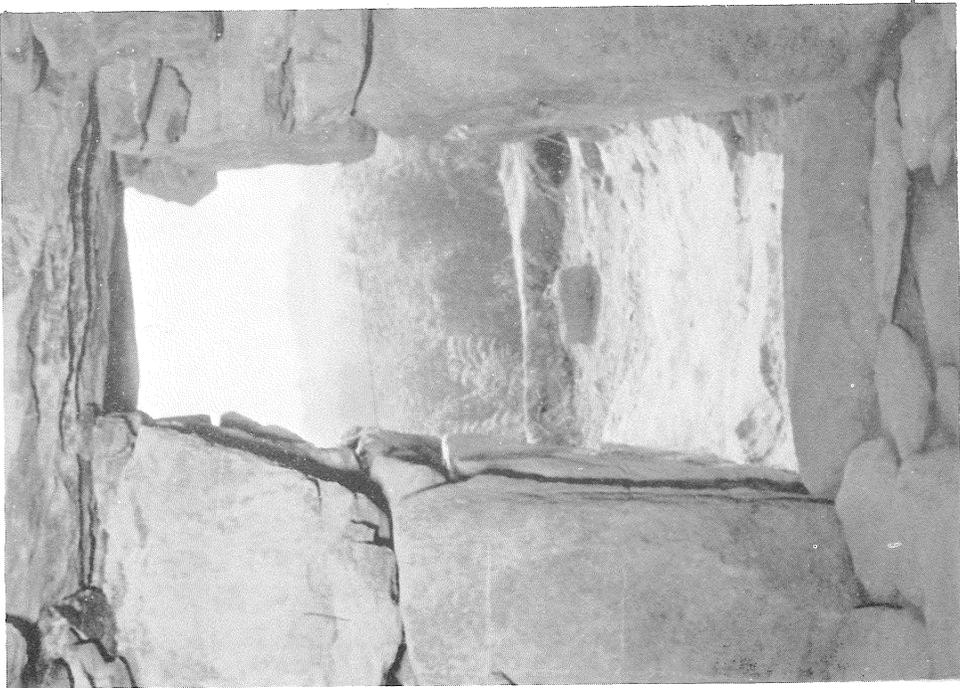
2号墳 玄室より望む



2号墳 西側壁を望む



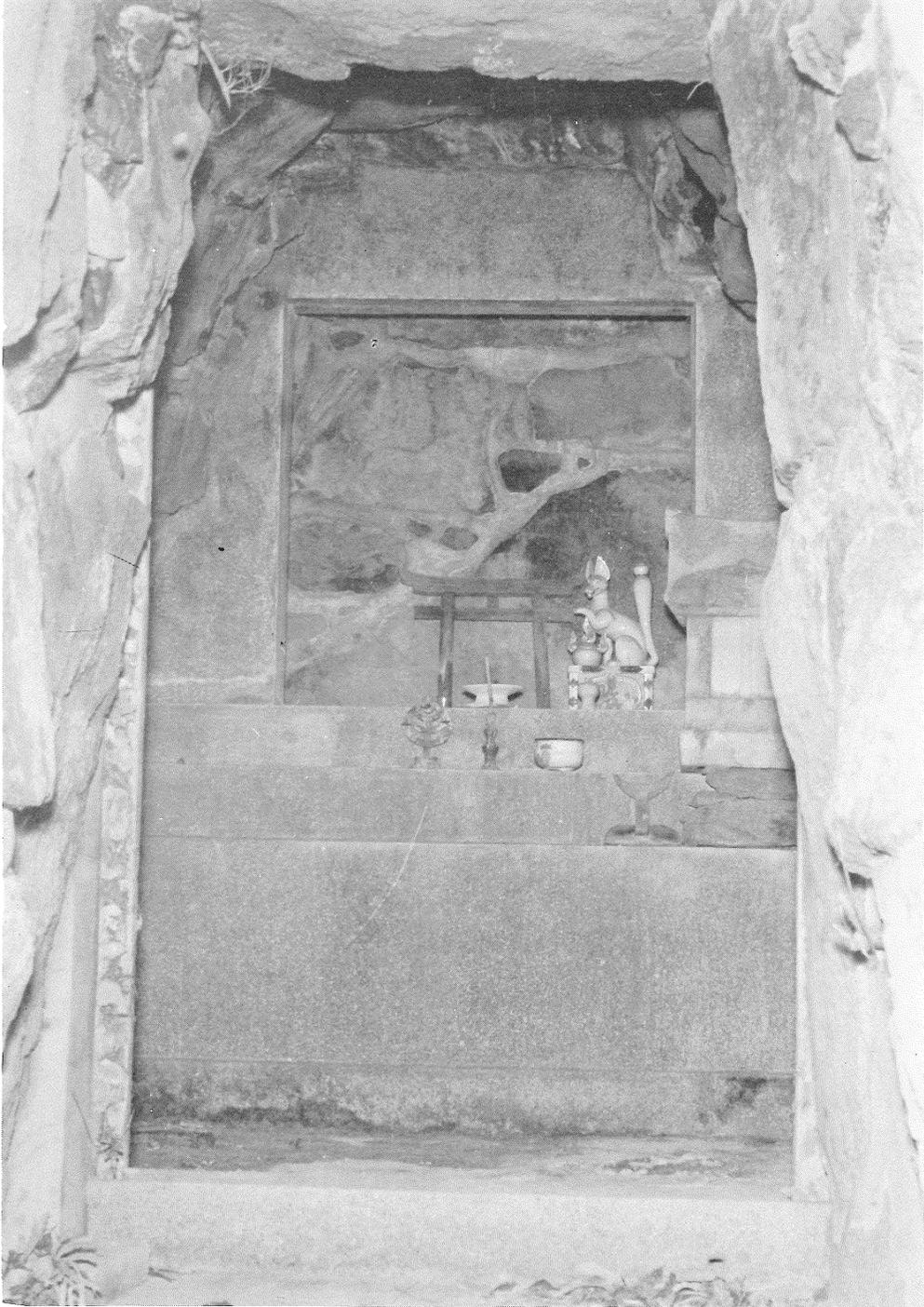
3号墳 奥壁正面



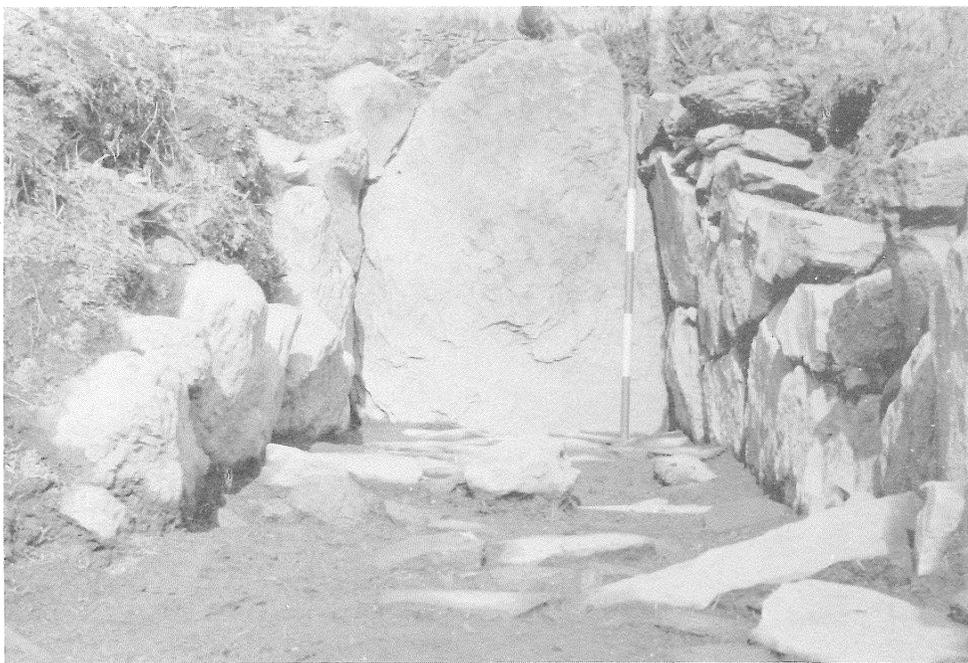
3号墳 玄室より望む



3号墳 西側壁を望む



5号墳 正面より



7号墳 奥壁全景



8号墳 奥壁全景



7号墳 奥壁上部より石室内を



8号墳 西側壁を望む